***国際連携タスクフォース活動報告***

国際連携タスクフォースは、国際取引および海外現地取引における安全で効率的な電子化を推進するため、企業のグローバルサプライチェーンIT基盤ニーズに沿って、関連タスクフォースと国連CEFACT日本委員会・標準促進委員会と協力して、国際連携調査研究活動を国連CEFACTおよびアジア地域において展開した。

***１　国際連携タスクフォース会議***

国際連携タスクフォース会議は、堀内一（UMLモデリング推進協議会）リーダーの下、会員委員17名、賛助会員委員7名、およびオブザーバー3名の参加により、ラウンドテーブル及び4回のタスクフォース会議を通して次の調査研究を行った。



***2　国連CEFACTにおける国際標準化とその普及***

（１）国連CEFACT日本委員会の下、国連CEFACTにおける手法技術PDA、サプライチェーンPDA、およびライブラリ管理チームに参加し、日本提案を含む標準の策定・保守と普及に貢献した。

2016年度におけるSIPS提案の主な成果は次のとおり。

* 日本における金流商流情報連携システムの基盤となる支払通知メッセージの拡張提案を行い、新バージョンとして国連CEFACTより公開された。
* 日本における中小企業共通EDI促進のため、中小企業業務要件を提案し、国連CEFACTの共通辞書に反映された。
* 日本の製造業で広く行われている、現品票を使ったJIT製造プロセスの国連CEFACT標準化プロジェクトを立上げ、審議が始まった。

一般財団法人日本貿易関係手続簡易化協会の依頼により参加した国連CEFACT関係会議は次の通り。



（２）AFACTおよび国連ESCAPを通じ、アジア各国の情報連携電子化状況とその取組みを調査するとともに、国連CEFACT標準に基づくSIPSビジネスインフラの普及を図った。



（３）新生技術対応ビジネスインフラ研究

将来のビジネスインフラの要素技術となりえる、AI、IOT、FinTech、ビッグデータ、サイバーセキュリティなどの調査研究のため、有識者によるラウンドテーブルを開催した。

開催日時：2017年1月8日　10:00~17:00

開催場所：機械振興会館　会議室

出席者：有識者講師（3名）、SIPS会員（6名）、オブザーバー（1名）、事務局（2名）

審議内容：

* IOT時代の最新技術動向

一般財団法人日本情報経済社会推進協会　常務理事 坂下哲也

* 中小企業にとってのFinTech

一般社団法人クラウドサービス推進機構　理事長 松島圭樹

* クラウドの現状と今後の展開

株式会社スマイルワークス　代表取締役社長 坂本恒之

* 金融EDIへの取組み

株式会社小島プレス　総務統括部参事　兼子邦彦

* SIPSの取組み

一般社団法人サプライチェーン情報基盤研究会　理事　菅又久直

* 自由討議

以上